



Kumamoto University

自然科学研究科だより

The Newsletter of Graduate School of Science and Technology, Kumamoto University

編集・発行 熊本大学大学院自然科学研究科広報委員会
自然科学研究科ホームページ <http://www.gsst.kumamoto-u.ac.jp>

News Letter 2007.6
No. 2

1

特集 魅力ある大学院教育イニシアティブ「異分野融合能力をもつ未来開拓型人材育成」特別教育プログラムの紹介

複合新領域科学専攻教授／教育プログラム代表者 安部 眞一

本学大学院自然科学研究科の基本理念は、総合的・融合的・国際的視野を持つ創造性豊かな研究者・技術者の育成です。この理念に基づいて、本研究科では世界に誇る3研究グループを3講座として複合新領域科学専攻を設置し、個性的な新しい複合・融合的科学を創成できる若手人材の育成を目指しております。そのうち、複合ナノ創成科学講座と生命環境科学講座において、「魅力ある大学院教育イニシアティブ」に「異分野融合能力をもつ未来開拓型人材育成」特別教育プログラムを申請し、18年度と19年度の2年間のプログラムとして認められました。

本教育プログラムは、上記の人材育成のために5年一貫教育を通して前期課程ではナノ・環境・生命に関する複合新領域創成に必要な基盤的教育を、後期課程では実際に複合新領域科学を創成できる人材を養成するためのより高度で先端的・実践的な教育を行います。

前期課程では、新領域科学創成の基盤的能力養成を主眼としており、主にコースワーク（専門基礎科目、学際専門科目、境界専門科目、最新論文をレビューとしてまとめる特別演習の履修）により科学創成の基になる知識を修得させます。また、複数指導体制による特別研究や研究視野の拡大をねらった異分野研究室へのインターンシップ、国内外で研究発表させる特別プレゼンテーションを設定しています。

後期課程においては最先端研究の知識習得、トップレベル研究マインド育成のための海外インターンシップおよび国際会議で口頭発表させる国際会議プレゼンテーションおよびプロジェクトゼミナールを設定し、多様な研究活動の場で研鑽できるシステムにおいて先端の実践研究トレーニングを行うことにしています。

特に、先端融合プロジェクトゼミナールでは、英語を共通言語として、異分野科学の研究を各要素に分け、それらを機能的に再構築する「組み合わせトレーニング」（下記参照）により複合・融合能力を格段に高めます。院生の研究発表と討論、院生による最新論文発表と討論、研究の産業的側面からの評価検討、参加教員・研究者自身の研究プロセスを題材とした研究ケースメソッドの発表を行い、院生の要素組み合わせによる複合・融合能力の育成や自立的創造力を高めます。このような多角的で集中的なトレーニングを通して新科学技術を創成できる能力に達したかどうかを各段階の評価シート方式により判断し、厳格な成績評価を行います。

「組み合わせトレーニング」とは：

院生が行っている研究内容を素材、プロセス、条件、機能領域に分離し、それぞれを各要素に分け、一方ある異分野研究において同様にして分けた各要素とを機能的に組み合わせ、可能となる研究を提案させます。それらを、プロジェクトゼミナールで発表させ、科学的論拠と研究インパクトの程度から検討評価し、提案した研究にフィードバックさせます。これを繰り返し行った後、最終的に優れた課題研究に対して研究費支援プログラムのもと自由に研究させ、成果を報告させます。

「各種支援プログラム」：

教育プログラム全体に対して、「院生自立支援プログラム」や「高度遠隔学習支援プログラム」を設定しています。前者では、院生が生活を自立して研究に専念できる「若手研究者雇用プログラム」、自ら設定した研究テーマに対して自由に研究するための経費を支援する「研究経費支援プログラム」、成果発表をサポートする「成果発表支援プログラム」、海外インターンシップを支援する「海外研修支援プログラム」を用意しています。後者では、インターネットを利用して院生が海外でも自由に自習・自学できるようなシステムとなっています。このように、院生の自立力・創造力を高め、院生の飛躍的自立性の向上と学習ケアを行うプログラムとなっています。優秀な成績と能力を有し、学位論文が合格すれば、修業年限短縮によって学位が取得できます。

CONTENTS

① 特集 魅力ある大学院教育イニシアティブ「異分野融合能力をもつ未来開拓型人材育成」特別教育プログラムの紹介 …	1
② プロジェクトゼミナール「GeoX セミナー」の紹介 ……………	3
③ JST 地域結集型研究開発プログラム（CREATE）……………	4
④ 新設—大学院自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センター ……………	6
⑤ 熊本大学大学院自然科学研究科外国人留学生奨学基金の設置 ……………	7
⑥ 平成18年度就職状況〈就職先の業種別割合〉……………	8
⑦ 受賞者一覧〈平成18年4月～平成19年2月〉……………	8

教育プログラムの特色 5年一貫教育プログラム

博士前期課程

・複合新領域科学専門科目（ナノ・環境・生命）

専門基礎科目、学際専門科目、境界専門科目

➡ 基礎知識の習得

・複合新領域科学特別演習（必修）

最新論文をレビューとしてまとめ発表

➡ 最新情報収集とその理解力の向上

・複合新領域科学特別研究（必修）

複数指導教員による共同指導体制

➡ 多角的な研究能力の育成

・特別プレゼンテーション（必修）

国内外学会での発表

➡ プレゼンテーション能力の育成

・異分野研究インターンシップ（必修）

学内異分野研究室でのインターンシップ

➡ 複合的研究視野の拡大



修了

博士後期課程

・先端科学特別講義

学内外教員・研究者による最先端研究講義

➡ 最先端研究知識の習得

・国際会議プレゼンテーション（必修）

国際会議での口頭発表

➡ 英語発表能力の育成

・海外インターンシップ（必修）

海外トップレベル研究室への研究派遣

➡ トップレベル研究マインドの育成

・先端融合プロジェクトゼミナール（必修）



➡ 複合・融合能力、自立的な研究力の育成
修了・学位授与

若手人材育成高度
実践プログラム

異分野融合能力をもつ未来開拓型人材

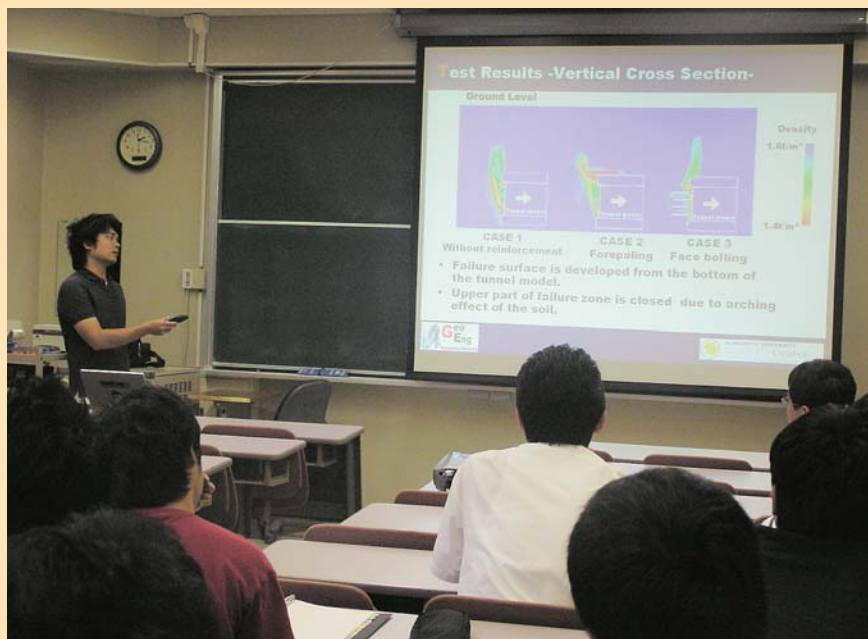
2 プロジェクトゼミナール「GeoX セミナー」の紹介

環境共生工学専攻教授 尾原 祐三

昨年度後期から始まったプロジェクトゼミナールの1つとして、大学院自然科学研究科の博士前・後期課程の学生を対象に、X線CTの工学的応用に関するセミナーを開講しました。このセミナーは、土質、岩盤、コンクリートなどの地盤材料や水、土壌などの地盤環境を対象とした工学に関する高い専門知識を有し、国際的に通用するX線CT法を用いた研究を自ら遂行することができるとともに、その成果を英語で発表できる高度技術者を養成することを目的としています。

セミナーの担当教員は8名、受講学生は52名です。月1回程度の割合でセミナーを行い、国内外から招待した著名な研究者の講演を聞くとともに、学生自身が行っている研究を英語で発表してもらい、ディスカッションを行って来ました。昨年度は5回のセミナーを行い、11名の招待講演、6名の学生発表を行いました。また、3名の学生が研究成果を国際会議で発表し、世界の研究者と交流しました。今年度はすでに5回のセミナーを行い、10月にはフランス（グルノーブル）で開催された国際ワークショップ「GeoX2006」に教員4名、学生5名が参加して研究成果を発表しました。

本セミナーの目的を達成するための中心的な役割を果たす装置は産業用X線CTスキャナーで、1996年度（平成8年度）に本学に導入されました。日本の大学の工学系学部で所有する唯一の産業用X線CTスキャナー装置であり、世界的にも例を見ません。本装置は使用を開始して10年目に入り老朽化しましたので、本年4月、最新のIC機器技術の導入などの改修により約0.07mmの構造を識別できるように空間分解能を向上させました。この結果、これまで以上の精度で内部の構造や現象を可視化・分析できるようになり、さらなる研究の発展が期待



▲学生による発表中の風景

できます。

本研究は世界に先駆けたものであり、担当教員はこれまでに専門論文誌、国際会議論文、口頭発表などに数多くの研究成果を公表しています。2003年には熊本市において国際ワークショップ「X-ray CT for Geomaterials」を主催しました。一方、本装置は学生の教育においても大いに成果を挙げています。本装置を用いた研究に関連した博士号取得者が5名おり、現在博士後期課程学生6名が研究に励んでいます。これらの成果は大学院の学生によって学会などで発表され、数多くの賞を受賞しています。

これまでの成果を踏まえて、平成17年9月にGeoX CT Centerを設立しました。このセンターはX線CT法を用いて研究を行っている教職員が組織したもので、センター長を尾原が務め、スタッフは、教授：大谷順、菅原勝彦、小池克明、助教授：川越保徳、山田文彦、佐藤晃、棕木俊文、助手：田中健路、技術専門職員：松本英敏、吉永徹です。また、本年4月から、2名の外国人客員研究員、Lenoir先生（グルノーブル大学：フランス）とErgun先生（ハセテッペ大学：トルコ）がスタッフに加わり、センターの活動のほかGeoXセミナーに積極的に参加していただき、学生の教育・研究に協力していただいています。なお、センターのホームページアドレスは文末のとおりです。是非一度開いて詳細をご覧ください。皆様の職場や研究所で対象としている物体内部の構造や現象などを見てみたいと思われている方は、世界にも稀な装置でその内部を覗いていただきたいと思います。

<http://www.civil.kumamoto-u.ac.jp/geox/>



▲ディスカッション中の風景

3 JST 地域結集型研究開発プログラム (CREATE)

「次世代耐熱マグネシウム合金の基盤技術開発」プロジェクト

複合新領域科学専攻教授／プロジェクト代表研究者 河村 能人

■JST 地域結集型研究開発プログラムについて

2006年10月に、熊本大学が熊本県と共同で提案していた「次世代耐熱マグネシウム合金の基盤技術開発」が、文部科学省傘下の科学技術振興機構 (JST) が実施している地域結集型研究開発プログラム (CREATE) の新規課題として採択されました。これは総額24億円の大型プロジェクトであり、2006年度は全国で2件のみの採択でした。本プログラムは、地域として企業化の必要性の高い分野の個別的研究開発課題を集中的に取扱う産学官の共同研究事業であり、大学等の基礎的研究により創出された技術シーズを基にした試作品の開発等、新技術・新産業の創出に資する企業化に向けた研究開発を実施するものです。

■プロジェクト提案の背景

マグネシウムは実用金属材料の中で最も軽量であることから、パソコンや携帯電話等の情報機器の筐体や自動車部品として広く使われ始めています。熊本大学では従来の常識を覆すような優れた機械的特性を有する革新的なマグネシウム合金を2003年に開発しました (図1参照)。開発した合金は **KUMADAI マグネシウム合金** と呼ばれており、軽量化が喫緊の課題となっている自動車用材料として期待が高まっています。一方、近年北部九州には自動車産業が集積し、数年後には年間生産台数が200万台にも達する勢いです。熊本県は、北部九州に近く、韓国・中国とも貨物航路を持ち、自動車産業をサポートする部品メーカーの立地拠点として注目され、我が国の基幹産業である自動車産業の競争力を支える地域として期待されています。このため、熊本県では2005年に「ものづくりフォレスト構想」を策定するなど、自動車産業等のものづくりを産業戦略の柱としており、自動車の軽量化に資する **KUMADAI マグネシウム合金** の実用化を重点課題に位置付けています。これらの理由から、熊本大学は熊本県と協力して、**KUMADAI マグネシウム合金** を核にした次世代耐熱マグネシウム合金の基盤技術を開発するために、JST 地域結集型研究開発プログラムを活用することにしました。

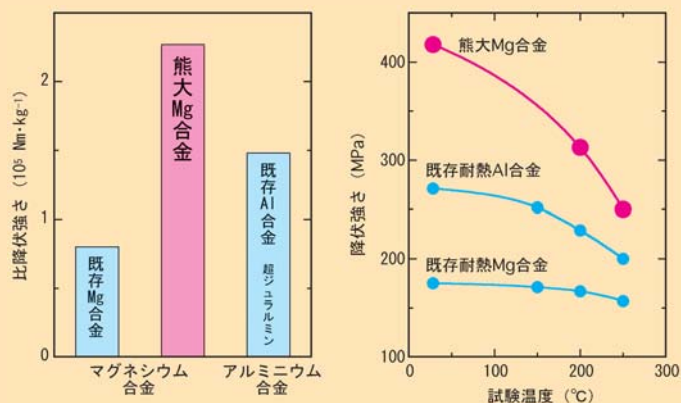


図1 KUMADAI マグネシウム合金の優れた機械的特性

■プロジェクトの概要

プロジェクトの実施期間は、2006年12月から2011年11月までの60ヶ月間です。予算規模は総額24億円であり、そのうち12億円をJSTが負担し、同額をプロジェクト参画機関等が負担します。本プロジェクトの運営を担う中核機関はくまもとテクノ産業財団であり、そこには事務局スタッフが配置されます。行政担当部署は熊本県商工観光労働部であり、代表研究者は熊本大学の河村能人です。本プロジェクトでは、企業化統括 (瀬戸英昭 産学官連携コーディネーター・熊本大学客員教授)、副企業化統括 (坂井滋 日産自動車シニアエンジニア・熊本大学客員教授)、企業化統括補佐 (渡邊昇治 熊本県商工観光労働部総括審議員・熊本大学客員教授) を配置して、実用化を目指したプロジェクト運営を強力に推進します。

プロジェクトの目的は、拠点形成のための体制構築と環境整備、新技術開発ならびに事業化促進によって、次世代耐熱マグネシウム合金に関する卓越した研究開発・産業拠点の形成を図ることであり、**KUMADAI マグネシウム合金** を自動車等の輸送機器や産業機器へ実用化することを目指しています。

KUMADAI マグネシウム合金 等の新素材の実用化を図るためには、「試作、知財、人材育成」の三位一体による技術移転が重要であるという理念の下で、このような技術移転に適した次世代耐熱マグネシウム合金実用化プラットフォームを構築するという将来構想を考えています (図2参照)。すなわち、基礎研究と知的財産創出を担う研究開発センターを熊本大学に設置するとともに、試作品供給と技術指導を担う加工技術センター、技術移転と人材育成を担う新技術支援・教育研修センター、ならびにこれらの3つのセンターの全体的な企画・運営を担う実用化推進本部をくまもとテクノ産業財団に設置することによって、次世代耐熱マグネシウム合金実用化プラットフォームを構築するという構想です。そして、本プラットフォームで生み出される新技術を基に、技術供与、試作品供給、共同研究等を通して新産業を興そうと考えています。

そこで、本プロジェクトでは、上述の将来構想の実現を目指して、熊本大学にコア研究室とサブコア研究室を設置するとともに、くまもとテクノ産業財団に結集型プログラム推進本部と新事業支援・教育研修チームを設けることによって体制を構築します。熊本大学は、材料設計や分析・評価等の材料設計技術を開発するサブコア研究室を、工学部8号館を改修して設置します。くまもとテクノ産業財団と熊本県は、約1億円を出資して、溶解・鋳造や加工等の製造基盤技術を開発するコア研究室を熊本大学構内に新しく建設します。今年の9月には両研究室が完成し、総額約5億円をかけて最新鋭機器を多数導入する予定であり、トップレベルの研究環境が整備されることとなります。また両研究室には、13企業 (日産自動車㈱、㈱神戸製鋼所、㈱アーレスティ、九州不二サッシ㈱、三井金属鉱業㈱、㈱アー

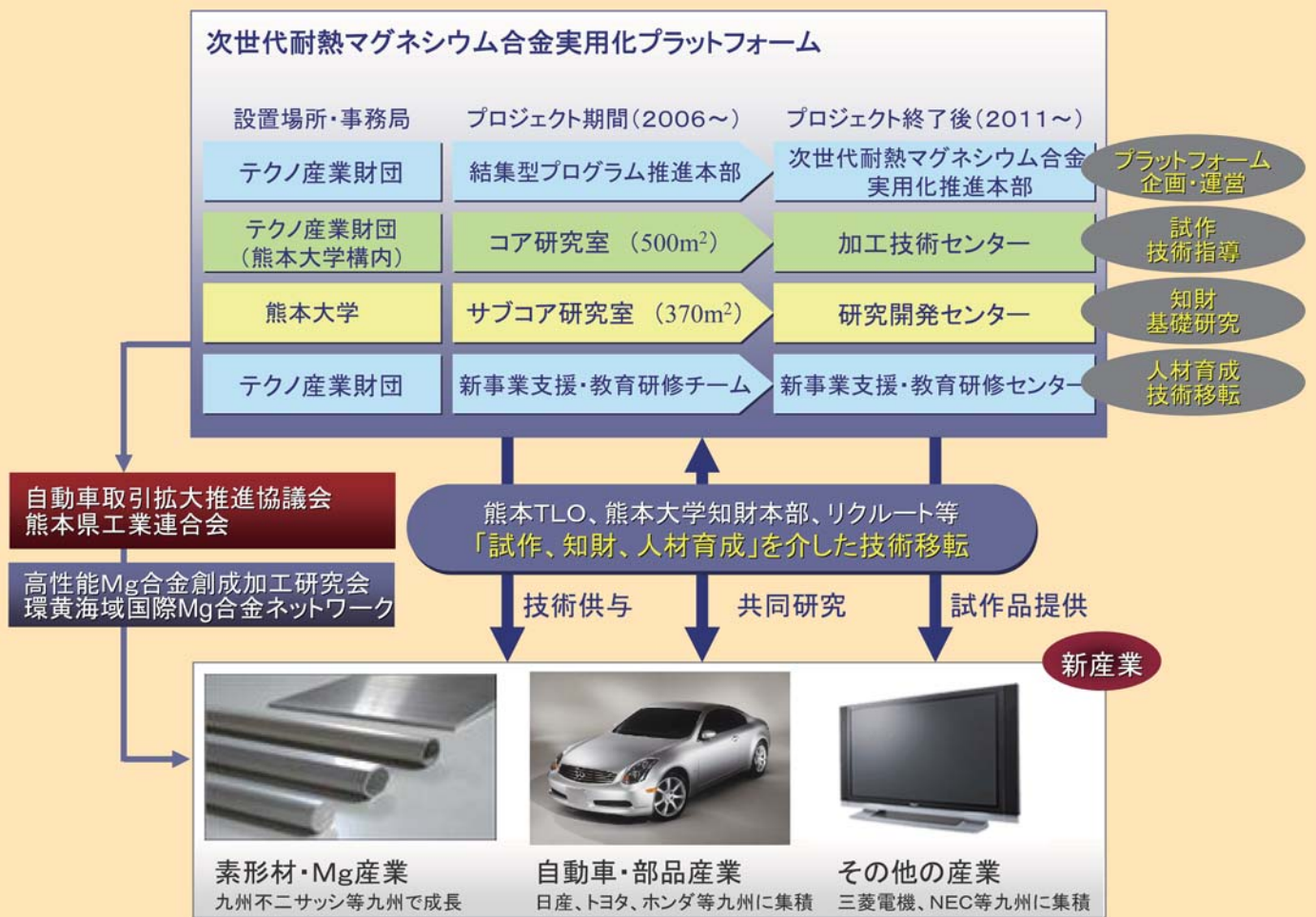


図2 プロジェクトの実施体制と将来構想

レスティ熊本、ネクサス(株)等), 8大学(熊本大学, 九州大学, 九州工業大学, 大阪大学, 東京大学等), 熊本県産業技術研究所の研究者の他に, くまもとテクノ産業財団が新たに採用するポスドク等が結集して, 総力をあげて研究開発を進めます。特に, 熊本大学からは, 拠点形成研究B「環境軽負荷を目指した高性能Mg合金の創成加工」プロジェクトのメンバーを中心に総勢20名が参画します(表1参照)。

■「マグネシウム合金と言えば熊本大学」を目指して!

熊本大学では地域結集型研究開発プログラム以外にも種々の取り組みを実施しています。経済産業省の国家プロジェクトとして2003年度から5ヵ年間の予定で実施されている「次世代航空機用構造部材創製・加工技術開発」プロジェクトに参画して, ナノ結晶型KUMADAIマグネシウム合金の研究開発を, (財)次世代金属・複合材料研究開発協会, 三菱重工業(株), (株)コベルコ科研, 福田金属箔粉工業(株)と共同で進めています。また, 2003年に「高性能Mg合金創成加工研究会」を設立して産学官交流を推進しています。さらに, 中国の上海交通大学, 中国科学院, 華南理工大学, 韓国の生産技術研究院, 弘益大学, 公州国立大学, 台湾の国立中山大学, 国立東華大学等とMOUを締結して, マグネシウム合金に関する「環黄海域国際ネットワーク」の形成を図っています。さらに, 拠点形成研究のプロジェクトでは, 共同研究以外にも, プロジェクトゼミナール, 先端科学特別講義ならびに外部非常勤講師による集中講義等を実施することによって, マグネシウム合金に特化した大学院教育によるスペシャリストの育成も行っています。これらの全学的な支援

表1 熊本大学からのプロジェクト参画者

プロジェクト参画者	プロジェクト参画者	プロジェクト役職
拠点形成研究	河村能人教授	代表研究者
	里中 忍教授	テームリーダー
	河原正泰教授	テームリーダー補佐
	松本泰道教授	サブテームリーダー
	頓田英機教授	
	峠 睦教授	
	高島和希教授	
	安藤新二准教授	
	岩本知広准教授	
	丸茂康男准教授	
	外本和幸准教授	
	大津雅亮講師	
	山崎倫昭助教	
北原弘基助教		
阮 立群助教		
客員教授	瀬戸英昭客員教授	企業化統括
	坂井 滋客員教授	副企業化統括
	渡邊昇治客員教授	企業化統括補佐
その他	谷口 功教授	企業化促進会議委員
	廣末英晴教授	共同研究推進委員会委員

を基にした戦略的な取り組みによって, 知的・技術的資源の結集と育成ならびに拠点形成の環境整備と体制構築が図られていることから, マグネシウム合金の世界的な拠点として, 今, 熊本大学に大きな期待が寄せられています。

4 新設—大学院自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センター—

(Global Joint Education Center for Science and Technology)

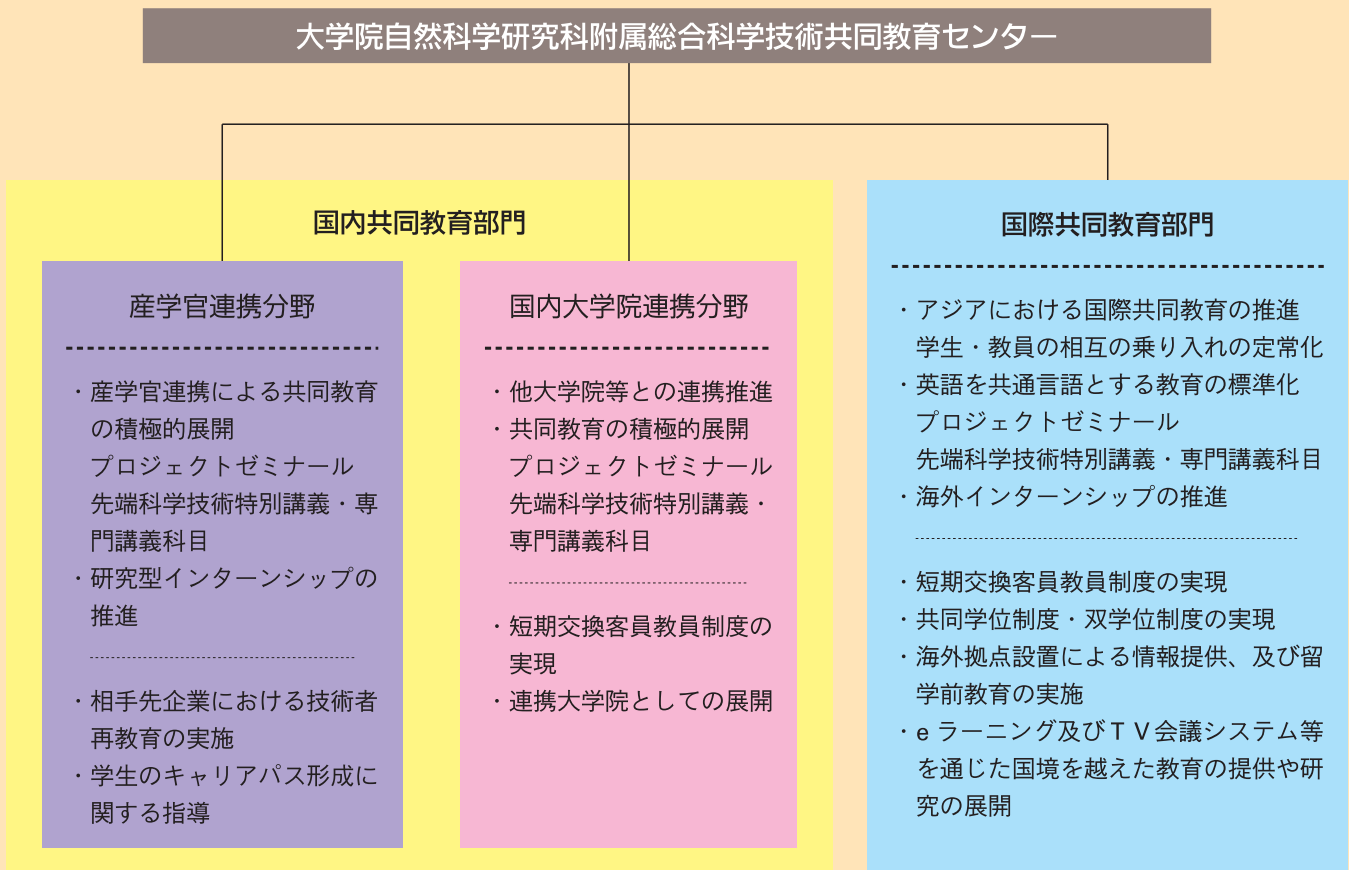
平成19年度センター長 松本 泰道

大学院自然科学研究科では、「国際的に魅力ある大学院へ大きく前進する」ことをその大きな目標として掲げています。そこで以下の3つの柱を軸にして、多様で国際性豊かな共同教育を推進するため、附属の総合科学技術共同教育センターを他の大学院に先駆けて新設しました。

- ①産業界との最先端研究開発分野に関する共同教育やより実践的な研究型インターンシップ
- ②他大学大学院との現代科学技術の広範な領域における共同教育
- ③英語を共通言語とした国際共同教育

本センターは以下の図に示すとおり国内共同教育部門 (Division of Regional Joint Education) 及び国際共同教育部門 (Division of International Joint Education) の2部門からなっております。国内共同教育部門は、国内企業及び国内他大学院との教育面での連携を担当する部門であり、産業界等における先端的科学技術が実践的に学べる産学官連携分野 (Division of Joint Education with Industries and Governments) と本研究科にない専門分野が学べる国内大学院連携分野 (Division of Joint Education with Graduate Schools) から構成されています。また、国際共同教育部門は、海外交流協定校等との連携を担当し、本研究科が目指す国際化を強力に推進するための核となる部門であり、外国人教師による英語授業が直接受けられ教育面での国際感覚を養うことができます。

このように、本センターは多様で国際性を身につける教育を供与しますので、多数の学生諸君の受講を待っております。詳しくは学生便覧を参照下さい。



平成19年度総合科学技術共同教育センター客員教授一覧表

国内共同教育部門	産学官連携分野 部門長 里中忍教授	教授	上野直広	(独)産業技術総合研究所・主任研究員
		教授	薄葉州	(独)産業技術総合研究所・主任研究員
		教授	菅原敬信	(財)化血研菊池研究所・次長
		教授	小阪健一郎	三菱重工業(株)長崎研究所・主席研究員
		教授	鎌田正智	三菱重工業(株)長崎研究所・室長
		教授	木本衛	三洋電機(株)研究開発部アドバンストエナジー研究所エナジース トレージ研究所・担当部長
		教授	渡邊昇治	熊本県商工観光労働部・総括審議員
	国内大学院連携分野 部門長 西野宏教授	教授	石山拓二	京都大学大学院・教授
		教授	岸本昭	岡山大学大学院・教授
		教授	荒木啓二郎	九州大学大学院・教授
教授		石坂丞二	長崎大学・教授	
国際共同教育部門	部門長 岸田光代講師	教授	Engin Karatepe	エーゲ大学(トルコ)
		教授	Hatem Mohamed Godah	エレクトロニック リサーチ インスティテュート(エジプト)
		教授	Paul Gloess	国立ボルドー高等電子情報学院(フランス)(予定)
		教授	James Kolodzey	University of Delaware(アメリカ)
		教授	Fushuan Wen	華南理工大学院(中国)(予定)
		教授	Omar Hassan	サウスバレー大学(エジプト)

5 新設－熊本大学大学院自然科学研究科外国人留学生奨学基金

研究科長 松本 泰道

本研究科の教育・研究における国際化を推進するため、企業からの助成により、熊本大学大学院自然科学研究科に外国人留学生奨学基金を設置し、優秀な私費外国人留学生を対象に奨学金を給付して財政的援助を行うことにいたしました。

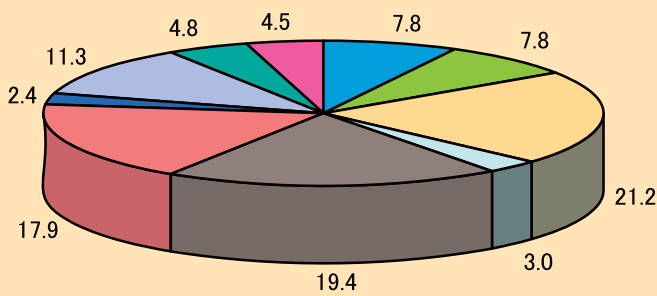
奨学金の給付対象者は、本研究科の博士前期課程及び博士後期課程の正規課程に在籍する留学生で、学業成績、人格ともに優れている学生です。奨学金は、一人当たり月額3万円～8万円程度で、給付期間は、本研究科の在籍期間とし、博士前期課程の学生については2年間以内、博士後期課程の学生については3年間以内としています。

平成18年度この基金にご賛同頂き、ご寄付頂いた企業は以下の通りです。
ここに厚くお礼申し上げます。

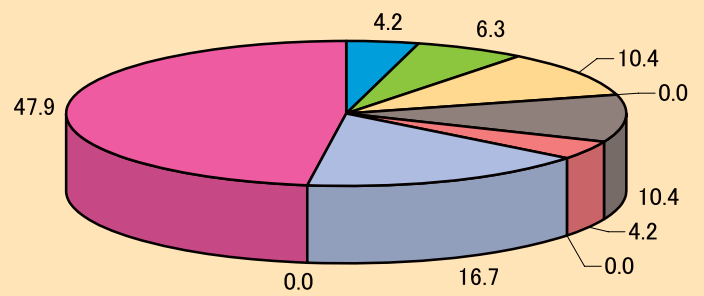
- ・株式会社 興人
- ・触媒化成工業 株式会社
- ・チッソ 株式会社
- ・DOWA ホールディングス 株式会社
- ・財団法人 化学及血清療法研究所
- ・株式会社 熊防メタル

6 平成18年度就職状況 〈就職先の業種別割合〉

博士前期課程



博士後期課程



■ 建設・不動産 ■ 鉄鋼・金属・鉱業 ■ 電機 ■ 情報・ソフトウェア ■ 化学・石油・食品
■ 機械・輸送・精密 ■ コンサルティング ■ 金融・その他 ■ 進学 ■ 公務員・教員・研究機関

7 受賞者一覧 〈平成18年4月～平成19年2月〉

氏名	賞の名称等	授与団体等	指導教員
スジャリトボン アタビ	Highly Commendable Paper AWARD	8th International Conference on Steel, Space and Composite Structures	山尾敏孝教授
松山 史憲	日本機械学会フェロー賞 (若手優秀講演)	社団法人 日本機械学会	佐田富道雄教授
沓掛亜矢香	日本金属学会・日本鉄鋼協会九州支部合同学術講演会ポスター優秀発表賞	日本金属学会, 日本鉄鋼協会九州支部	頓田英機教授
安本 義宏	日本金属学会・日本鉄鋼協会九州支部合同学術講演会ポスター優秀発表賞	日本金属学会, 日本鉄鋼協会九州支部	西田 稔教授
石原 優	日本金属学会・日本鉄鋼協会九州支部合同学術講演会ポスター優秀発表賞	日本金属学会, 日本鉄鋼協会九州支部	西田 稔教授
木崎原直剛	日本金属学会・日本鉄鋼協会九州支部合同学術講演会ポスター優秀発表賞	日本金属学会, 日本鉄鋼協会九州支部	西田 稔教授
木附 裕章	日本金属学会・日本鉄鋼協会九州支部合同学術講演会ポスター優秀発表賞	日本金属学会, 日本鉄鋼協会九州支部	黒田規敬教授
金 珉 哲	日本金属学会・日本鉄鋼協会九州支部合同学術講演会ポスター優秀発表賞	日本金属学会, 日本鉄鋼協会九州支部	河村能人教授
佐々木美波	日本金属学会・日本鉄鋼協会九州支部合同学術講演会ポスター優秀発表賞	日本金属学会, 日本鉄鋼協会九州支部	河村能人教授
林 勝敏	日本金属学会・日本鉄鋼協会九州支部合同学術講演会ポスター優秀発表賞	日本金属学会, 日本鉄鋼協会九州支部	西田 稔教授
Ninel Alver	第60回セメント技術大会 優秀講演賞	社団法人 セメント協会	大津政康教授
北村 裕介	第86春季年会学生講演賞	日本化学会	井原敏博助教授
上瀧 剛	第6回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会ベストセッション講演賞	計測自動制御学会	内村圭一教授
尼崎 太樹	STARC シンポジウム優秀ポスター賞	STARC シンポジウム実行委員会	末吉敏則教授
Asep Saepuloh	Best Presentation Award of 9th International Symposium on Mineral Exploration (ISME IX) (第9回国際鉱物資源探査会議 最優秀発表賞)	9th International Symposium on Mineral Exploration (ISME IX) 【主催 資源・素材学会探査工学部門委員会, バンドン工科大学】	小池克明教授
小野 昌彦	日本地下水学会若手優秀講演賞	日本地下水学会	嶋田 純教授
陸 哲元	Best Student Paper Award	Asia-Pacific Workshop on Visual Information Processing 2006	内村圭一教授
岩男 志乃	ISSF2006 Poster Award	8th International Symposium on Supercritical Fluids	後藤元信教授
坂口 明香	ISSF2006 Poster Award	8th International Symposium on Supercritical Fluids	後藤元信教授
楢原 翔太	平成18年電気学会基礎・材料・共通部門大会 若手ポスター優秀賞	社団法人 電気学会	秋山秀典教授
衛藤 正和	第43回化学関連支部合同九州大会 若手研究者奨励賞	日本化学会九州支部	町田正人教授
野尻 紘聖	SI2005ベストセッション講演賞	第6回計測自動制御学会システムインテグレーション講演会実行委員長	川路茂保教授
河野 翔	日本音響学会春季研究発表会ポスター賞	社団法人 日本音響学会	宇佐川 毅教授
宋 春奇	2006 IEEJ International Analog VLSI Workshop Young Researcher IEEE CAS Japan Chapter Sponsorship Award	IEEJ Analog VLS Workshop & IEEE CAS Japan Chapter	井上高宏教授
古賀 敦	Highly Commendable Paper AWARD 2006	10th International Conference on Inspection, Appraisal, Repair & Maintenance of Structures	山尾敏孝教授
本田 泰寛	平成17年度土木学会論文奨励賞	土木学会	小林一郎教授
森崎修一郎	第一回公共政策デザインコンペ黒川賞	社団法人 土木学会土木計画学研究委員会	溝上章志教授
岡本 欣久	第一回公共政策デザインコンペ黒川賞	社団法人 土木学会土木計画学研究委員会	溝上章志教授
柿坂 昭紀	(社)日本金属学会優秀ポスター賞	社団法人 日本金属学会	西田 稔教授
中村 大祐	第31回情報利用技術シンポジウム優秀講演賞	社団法人 土木学会情報利用技術委員会	小林一郎教授
山本 太一	論文表彰	日本水処理生物学会	古川憲治教授

編集委員会

溝上章志, 荒井賢三, 西本昌彦, 瀧尾 進, 岸田光代, 山元 淳, 赤井一郎, 田中 明, 秋元和實, 藤井紀行, 桑原 穰, 松田光弘, 吉川浩行, 芦原 評, 岩佐 学, 川越保徳, 大西康伸